

農推第1978号
平成29年8月16日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（8月）

大阪府内の8月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
暑い日が続いています。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。
高温時の薬剤散布では薬害が発生しやすいので、朝・夕の涼しい時間帯に行いましょう。
夏休みはほ場周辺で遊ぶ子供も増えますので、農薬散布時は、いつも以上に気をつけましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法(短期暴露評価)が導入されることに伴い、登録変更(変更申請中のものを含む)によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。

詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ 防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎ 短期暴露評価により変更される農薬の使用法の周知等について」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27_top.html

目次

1	水稲	P. 1～4
2	果樹(ぶどう、もも、温州みかん、いちじく、果樹類全般)	P. 5～9
3	野菜(なす、トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜)	P. 10～14
4	野菜類・花き類全般	P. 14
5	きく	P. 15～16

水稻

8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻				いもち病		
				紋枯病		
				縞葉枯病		
				もみ枯細菌病		
				内えい褐変病		
				ニカメイガ (ニカメイチュウ)		
				セジロウンカ		
				トビイロウンカ		
				ツマグロヨコバイ		
				斑点米カメムシ類		
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)						

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ブラシンフロアブル（7日前まで）等を散布する。

紋枯病



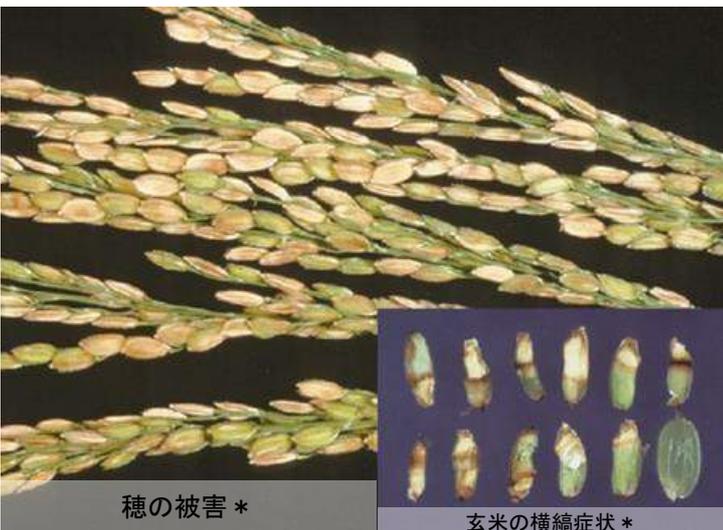
特徴

- ◆高温多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、分けつ多で発病が助長される。

防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆穂ばらみ期から出穂期にかけてリンパー粒剤（30日前まで）を散布する。
- ◆発生を認めたらパリダシン液剤5（14日前まで）等を散布する。

もみ枯細菌病



穂の被害*

玄米の横縞症状*

特徴

- ◆穂で発病すると、もみ全体が青白色になり、後にうすい褐色になる。
- ◆出穂期が多雨であれば発生しやすい。

防除のポイント

- ◆前年多発したところでは予防散布する。
- ◆ブラシフロアブル（7日前まで）等を散布する。

内えい褐変病



穂の被害※

特徴

- ◆出穂期が多雨であれば発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、ブラシフロアブル（7日前まで）等を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

ニカメイガ（ニカメイチュウ）



特徴

◆発蛾最盛期

越冬世代成虫：6月下旬～7月上旬

第1世代成虫：8月下旬～9月上旬

防除のポイント

- ◆発生が多い場合には、発蛾最盛期からその7日後頃までに**トレボン粒剤**（21日前まで）、**パダン粒剤4**（30日前まで）などを散布する。
- ◆中山間地など田植えの特に早い地域では、発蛾最盛期が早くなる。

セジロウんカ



幼虫※

特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆**トレボン粒剤**（21日前まで）、**スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤**（7日前まで）、**アプロード水和剤**（幼虫のみ、7日前まで）などを散布する。

トビイロウんカ



成虫

特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆**トレボン粒剤**（21日前まで）、**スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤**（7日前まで）、**アプロード水和剤**（幼虫のみ、7日前まで）などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

ツマグロヨコバイ



成虫*

特徴

- ◆葉に群がり汁を吸う。吸汁による実害は少ないが、萎縮病ウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。
- ◆トレボン粒剤（21日前まで）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（7日前まで）などを散布する。

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

特徴

- ◆畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

防除のポイント

- ◆出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、実施しない。
- ◆トレボン乳剤（14日前まで）、スタークル（アルバリン）粒剤（7日前まで）などを散布する。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



卵塊

特徴

- ◆食害が激しいのは田植え後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆次年度の発生を減らすため、ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とすか（卵は水中では生存できない）、踏みつぶす。

果樹

8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				晩腐病		
				べと病		
				チャノキイロアザミウマ		
				フタテンヒメヨコバイ		
				ブドウトラカミキリ		
もも		クビアカツヤカミキリ(新規発生)				
みかん				黒点病		
				カイガラムシ類		
				ミカンハダニ ミカンサビダニ		
いちじく				疫病		
				ハダニ類		
				ショウジョウバエ類		
果樹類全般				果樹カメムシ類		

ぶどう

晩腐病



晩腐病※

特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実で発生する。
- ◆果実に雨が当たると発生しやすい。

防除のポイント

- ◆適切な換気やマルチングを行い、湿度を下げるようにする。
- ◆発生を認めたら、**オンリーワンフロアブル**(前日まで)などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

べと病



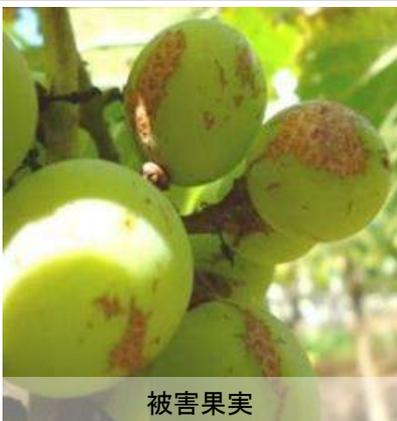
特徴

- ◆雨が多いと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル(14日前まで)、レーバスフロアブル(7日前まで)などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、葉害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆多発して落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響するので、収穫が終わった園もしっかり防除する。

チャノキイロアザミウマ



被害果実

特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

防除のポイント

- ◆コルト顆粒水和剤(前日まで)、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤(前日まで)などを散布する。

注)コルト顆粒水和剤を幼果期以降に使用する場合は、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。

フタテンヒメヨコバイ



葉の被害*

幼虫

特徴

- ◆葉裏から吸汁し、かすり状の傷を付ける。

防除のポイント

- ◆収穫後、スミチオン乳剤(小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで)、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤(前日まで)などを散布する。

ブドウトラカミキリ



成虫※

特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、芽や新梢が枯れたり、枝が折れたりする。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食いつ入るのは10月上中旬。

防除のポイント

- ◆収穫後、スミチオン乳剤(小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで)、モスピラン顆粒水溶剤(収穫後秋期)などを散布して防除する。

※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図:大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

もも

クビアカツヤカミキリ



成虫

特徴

- ◆成虫3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆成虫は6～8月に出現、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)がある穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆成虫は見つけ次第、捕殺する。
- ◆うどん状フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**(前日まで) **ベニカカミキリムシエアゾール**(前日まで)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆株に4mm目ネットを樹に何重にも巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。ネット設置後も見回り捕殺する。

温州みかん

黒点病



被害果実

特徴

- ◆雨が多くなると発生が増加し、広がる。

防除のポイント

- ◆**ジマンダイセン水和剤**(30日前まで)、**ペンコゼブ水和剤**(30日前まで)などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。

ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)



ナシマルカイガラムシ※

特徴

- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。

防除のポイント

- ◆幼虫発生期に**スプラサイド乳剤40**(14日前まで)等を散布する。
- ◆スプラサイド乳剤40はかんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。

温州みかん

ミカンハダニ・ミカンサビダニ



ミカンハダニによる葉の被害※

特徴

- ◆ 果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。
- ◆ 日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生を確認した場合は、コロマイト水和剤（7日前まで）、ダニエモンフロアブル（7日前まで）、スターマイトプラスフロアブル（7日前まで）等を散布する。
- ◆ 同一系統薬剤を連用すると抵抗性が発達しやすいのでローテーション散布を行う。



ミカンサビダニによる果実の被害※

いちじく

疫病



被害果※

特徴

- ◆ 雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷きわらやマルチを行う。
- ◆ ランマンフロアブル（前日まで）、レーバスフロアブル（14日前まで）等を散布して防除する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

ハダニ類



被害葉※



被害果※

特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。

防除のポイント

- ◆ダニサラバフロアブル（前日まで）
ダニヨングフロアブル（前日まで）
マイトコーネフロアブル（前日まで）
などを散布する。

ショウジョウバエ類



ショウジョウバエによるイチジク果実腐敗※

特徴

- ◆酵母腐敗病を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる過熟果や腐敗果は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆アーデント水和剤（前日まで）などを散布する。

果樹類全般

カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆もも、うめ、かき、ぶどう、みかんなどの果実に傷をつける。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を確認した場合はアディオン乳剤（かんきつ14日前まで、もも7日前まで、かき7日前まで）
スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ前日まで、もも前日まで、かき前日まで）
などを散布する。
注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

野菜

8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	程度				
		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			アザミウマ類	うどんこ病		
				褐紋病		
トマト・ミニトマト (施設栽培)				トマト黄化葉巻病 (TYLCV)・ コナジラミ類		
きゅうり (施設抑制栽培)				うどんこ病		
				炭そ病・褐斑病		
				ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)		
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)				コナガ		
				根こぶ病		

なす

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、乾燥条件下で多発する。

防除のポイント

- ◆発生前に、ベルコート水和剤（前日まで）、フルピカフロアブル（前日まで）を、発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤（前日まで）やアフエットフロアブル（前日まで）などを散布する。

褐紋病



特徴

- ◆主に露地栽培の水なすで発生する。
- ◆かびの一種で葉・茎・果実に感染し病斑を生じる。

防除のポイント

- ◆摘葉し、ほ場内の風通しを良くする。
- ◆発病を確認したら、小黑点（柄子殻）が生じる前に発病部位を取り除きほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ベンレート水和剤（前日まで）を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温小雨で増えやすい。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、
モベントフロアブル（前日まで）、プレオフロアブル
（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、
ディアナSC（前日まで）を散布する。

メモ

- ◆ソルゴー囲い込み栽培の場合は、天敵による防除効果を高めるため、天敵に影響の少ない剤（プレオフロアブル（前日まで）等）を使用する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

トマト黄化葉巻病(TYLCV)・コナジラミ類



TYLCV発症

特徴

- ◆トマト黄化葉巻病（TYLCV）は、コナジラミ類により媒介される。

防除のポイント

- ◆感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆感染株からの二次伝染を防ぐため、撤去した株はビニル袋等に密閉して完全枯死させる。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。

きゅうり(施設抑制裁培)

うどんこ病



うどんこ病 *

特徴

- ◆日照不足、乾燥条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回 程度の使用に留める。
QoI剤の例：アミスター20フロアブル(前日まで)
ストロビーフロアブル(前日まで)
フリントフロアブル25(前日まで)
SDHI剤の例：アフェットフロアブル(前日まで)
- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤(いずれも前日まで)、ベルコート水和剤(前日まで)などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル(前日まで)、ゲッター水和剤(前日まで)などを散布する。

ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫 *

特徴

- ◆施設抑制裁培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗(2mm目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点および脇芽の先端を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にゼンターリ顆粒水和剤(前日まで)、アファーム乳剤(前日まで)等を散布して防除する。

※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図:大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理あるいは定植時粒剤施用と、本ぽでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

特徴

- ◆8月に発生量が急増することがある。

防除のポイント

- ◆被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソンフロアブル5**（キャベツ、はくさい）等をかん注するか、**プリンス粒剤**（キャベツ、ブロッコリー）等を施用する。

根こぶ病



根こぶ病によるキャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆定植時に温度が高いと発生しやすい。早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすい。石灰質資材等を施用しpH 6.5～7に調整。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。

野菜類・花き類全般

8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類				オオタバコガ		
花き類(露地)						

オオタバコガ



なすの花に寄生するオオタバコガ幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

きく

8月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				白さび病		
			黒斑病・褐斑病			
			アザミウマ類			

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める
- ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。
注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。
注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アファーム乳剤（ミカンキイロアザミウマ）などを散布する。